

MARGARET THATCHER



サッチャー前首相の軌跡

CONTENTS

Part-I

本誌独占
インタビュー

指導者の資質とは
8P

Part-II

期待された
強力な指導者

「ダウニング・テン」
奪回への道
12P

サッチャーはどうやって
世論を味方にしたか
14P

「世界秩序」の構築
16P

Part-III

サッチャー首相の
政治・経済改革

彼女はいかにして
英國病を克服したか
19P

英國病退治の
総決算
23P

英國と保守党の
繁栄を願って
25P

政治改革の次世代への
たいまつを掲げて
27P

今、日本では政治改革が論議されていますが、サッチャー前首相はその十一年の間、ひたすら内外の改革に取り組んできました。從来の保守党の政策から脱却して、英國の政治・経済を大幅に刷新。また、フォークランド戦争では断固、国家としての筋を通し、ゴルバチョフを見出だして西側に紹介。今回の「ソビエト革命」の基礎を作りました。今号は、英國を再生させ、新世界秩序をもたらした彼女の改革をたどってみました。

指導者の資質とは 強固な意志を持ち、 敢然と ことごとく当たる人

聞き手 日本経済新聞社編集委員

田勢康弘氏

撮影 織作峰子



にこやかに記念撮影（右が田勢氏）



「鉄の女」とは強固な意思の持ち主ということと語るサッチャ 女史

ことだと実感したのです。

— そういううレーガン大統領に多大な影響を与えたのは、むしろ、あなたのサッチャリズムではないでしょうか。

アメリカには、私が行ったのと同様な経済政策を信じている、親しい友人が何人もいます。名前を上げさせていただくと、ミルトン・フリードマン博士。あの方は傑出した人です。FRB（連邦準備制度理事会）のポール・ボルカー前議長、そのあとのアラン・グリーンスパン氏も、議長になられる前からの友人です。

これらの人たちは、政策や助言を歪めることのない人たちです。皆、何をするのが最善かを知り尽した人たちなのです。政治の中にあって、正確な情報をつけみ見極めると同時に、豊かな感受性を持ちながら判断の下せる人なのです。レーガン大統領も私も、こうしたよいブレーンに囲まれて経済政策を開拓してきたのです。

コンセンサスとは
異なる意見の折衷

— じつは、あなたはいわゆる「コンセンサス（合意）の政治」を批判しておられます。そこにサッチャリズムの神髄が現れていると思うのですが、その考え方をきかかけに、いつぞよからお持ちだったのでしょうか。

「コンセンサス」という言葉が、現在較的最近になつてからです。私が政界に入ったころは、決して使われない言葉でした。保守党は常にいくつかの基本方針の上に立脚していました。そしてこの基本方針を、政策に練り上げ、実行に移していました。したがつて他の政党のところに行き、「そちらの

ご意見は私どものと違うようなので、ひとつ妥協点を探しませんか」というようなことはあり得ませんでした。

もし、自分の意見を持つていなければ、何を信じることもあり得ないわけです。コンセンサスというのは、異なった意見全部の折衷案のことです。もし、すべての人が信じていることがコンセンサスだとすれば、コンセンサスをとる必要はないわけです。

例えば、人権を大事にする理由を説明するとします。人はそれぞれ唯一無二であるから人権は尊い。そして、私たちは自分の行動を自分で決める権利があり、同時に自分の決断に責任を持たなければならぬ。そのような基本的人権、人間の尊厳が認められる権利は、いかなる政府も奪つてはならない、などと説明し、それから「皆さん、この政策に賛成してください」と言った場合、そこにはいわゆるコンセンサスはありませんでした。そのとき、誰かがコンセンサスが必要だと言ったのです。そこで私は、コンセンサスという言葉は何を意味するのか分からぬと言いました。私の欲しいのは同意です。

すると、私の同僚の一人が「コンセンサスというのは、合意に達することができないことを指すのだ」と言ったのです（笑い）。

しかし、コンセンサスを大事にしようとすると、何ごとにつけて妥協をしな

決して妥協しない
信念に基づき実行

— 一九八八年五月に、ホワイトハウス記者団のひとりとしてレーガン大統領に同行してロンドンを訪れました。その際、あなたの演説を聞く機会に恵まれましたが、私は偉大な指導者を持つ英國国民をうらやましく思いました。そこできよは、政治家にとって必要な指導者の資質とは何かを、まずお聞きしたいと思います。

あのときレーガン大統領は、モスクワでの米ソ首脳会談の帰途に英國に立ち寄り、ロンドンのギルドホールで講演されたのです。そのあとで、私がお礼のご挨拶を申し述べたわけです。

私自身、あのときは実に感動し、感傷的にさえなつっていました。というの

も、これがレーガン大統領にとつては、最後のロンドン公式訪問になるのだろうということが、胸にせまつたからです。レーガン氏、ゴルバチョフ氏、そして私の三人は、実にうまく協調し合ひ、世界を変えるほどの大仕事をなしとげてきました。レーガン氏と私は、まったく同じ政治哲学を持つています。

あの演説でレーガン大統領は、ご自分でを語られたのです。レーガン大統領こそ、まさに偉大な指導者の資質を備えた方です。

彼は、基本方針を貫き、理想を貫き通した大統領でした。産業界の活況、雇用の増大の実例を語るときにも、決して「レーガン政権の実績ですよ」と

は言わず、「我が国では民間企業の自由競争によって、富と雇用の増大をはかっている」と言いました。

これこそ彼が情熱を傾けた理想の一つか、富の創造と雇用の増大をもたらし、世界を変えるほどの大仕事をなしとげたのは、自由な企業だと謙虚に言われたのです。

今回の湾岸戦争の勝利にも現れていますが、指導者の資質という点では、ますます、指導者の資質を持つべき人物です。

指導者たる人は、突然的な悲劇の発生に備えて、ある種の見識を持つていなければ、何にも増して確固とした基本方針を持ち、決して妥協しないこと。信念を持ち続け、それを実行に移すことです。この点で、レーガン大統領は尊敬に値すべき人物です。

指导者たる人は、突然的な悲劇の発生に備えて、ある種の見識を持つていなければ、何を信じることもあり得ませんでした。

もし、自分の意見を持つていなければ、何を信じることもあり得ないわけです。コンセンサスというのは、異なる意見全部の折衷案のことです。もし、すべての人が信じていることがコンセンサスだとすれば、コンセンサスをとる必要はないわけです。

例えば、人権を大事にする理由を説明するとします。人はそれぞれ唯一無二であるから人権は尊い。そして、私たちは自分の行動を自分で決める権利があり、同時に自分の決断に責任を持たなければならぬ。そのような基本的人権、人間の尊厳が認められる権利は、いかなる政府も奪つてはならない、などと説明し、それから「皆さん、この政策に賛成してください」と言った場合、そこにはいわゆるコンセンサスはありません。しかし、正しいほうを目指しているという感覚はあります。

別な例を上げますと、四十数か国の大統領が参加して開かれたある英連邦首脳会議のことですが、いくつかの点で皆の合意に達することができませんでした。そのとき、誰かがコンセンサスが必要だと言ったのです。そこで私は、コンセンサスという言葉は何を意味するのか分からぬと言いました。私の欲しいのは同意です。

すると、私の同僚の一人が「コンセンサス」というのは、合意に達することができないことを指すのだ」と言ったのです（笑い）。

しかし、コンセンサスを大事にしようとすると、何ごとにつけて妥協をしな



ゴルバチョフを見出し、世界に紹介したのも、彼女の偉大な業績

日本は唯一の民主国家として、太平洋地域で大きな役割を果たしています。民主主義や経済政策の成功例として、極めて重要です。だからこそ日本は、冷戦時代にも、共産主義に打ち勝つことができたのです。日本は戦後に復興をはじめ、努力を重ねて経済的な繁栄をなしとげました。日本にできたのだから、ほかの国にもできるでしょう。

しかし、よい政府の下でないと経済的繁栄はありません。よい政府といふのは、何もかも手を出そうとはしない政府のことです。本来の政府がなす

りませんでしたから、自分たちで楽し
みを作り出していました。小さなとき
から歴史や政治に関心を持つていまし
たので、父とともに伝記や歴史、歴史
小説などの本を読んで育ちました。読
んで、読んで、読みまくったのです。
そして、大学教授の講演会が開かれれ
ば聞きに行き、講演のあとに議論にも
参加しました。有名な音楽家が来ると
聞きに行くという生活だったのです。
そういうわけで、知らず知らずのう
ちに父の影響を受け、何であれ話し合
い、本を読んでは議論をしました。
その中で、自然に政治に興味を持つ
たのです。例えば、あなたはなぜジャ
ーナリストになられたのですか。それ
は何かがあって、自然にジャーナリス
トという仕事に親しみを感じたからで
はないでしょうか。ある人は俳優にな
り、ある人は音楽家になる。私にとつ
ては、それが政治だったのです。
——最後に日本の役割について、お聞きし

について、政府は必要な法の整備などに努めるべきです。

日本の経済発展は目を見張るほどで、日本にだけは民主主義が根を下ろしています。もちろん、韓国も追い上げてきていますが、私たちの関心は中国です。ソ連はまず政治的な自由を手に入れ、それから経済の自由化に乗り出そうとしています。そして、このほうがはるかに困難であることに気づきはじめているところです。

一方、中国はまず経済的な自由を手にしました。通商の経験を積んでいたからで、商売で身を立て貿易をはじめるので、政治的な自由化が後回しになっています。いずれにしても、中国は民主主義を目指すと確信しています。そこで、日本が中国や韓国によい影響を与えることを期待しています。

その意味で、日本がアジアの中で大きな役割を果たし発展することが、世界の繁栄につながるのです。

——日本にはたくさんのサッチャード・ファンがいます。私もその一人で、お目にかかるれて光栄でした。

懐かしい私の写真をたくさん入れた特集（りぶる9月号）を組んでいただ

いて、ありがとう。

対する責任感などが強いですね。一方、社会党は極めて唯物論的な信条に基盤を置き、計画に専念し、産業計画を立て、そしてあらゆる合意を取り付け、消費者の要求は考えない。消費者運動の立ち入るすきがない。こういう基本方針の違いが、反映しているのではないか。うか。

のではな
いでしょうか。
ゴルバチヨフ夫妻と
親交を深めた寒い日

いうことを知りました。ブレジネフ政権から短命で終わつたアンドロポフ政権へ。そしてまた、次の指導者へと世代の交代が行われる状況でした。

そこで私は、新世代の政治家を見つける努力をするべきだと思い、私たちの意見をソ連側に伝えたのです。そして最初に出会つたのが極めて興味深い人物、ゴルバチョフ氏だつたのです。指導者を個人的に知ることは、何トンの本を読み、講義を聞くよりも効果的です。

彼は、一二月のある日曜日にやつてきました。イングランド中東部にある

英國首相の別邸チエツカーズにきたのです。そこは素晴らしい田舎の館で、心休まるところです。外は寒いのですが、家中は大きな暖炉が燃えていて暖かく、ゴルバチョフ夫妻も家に入ると打ち解けた雰囲気になりました。私たちは話していくうちに、次第に信頼関係に達しました。こういう経験もあって、私はどんな仕事についていてもある種の直感と、感覚を持つべきだと思いました。それからゴルバチョフ氏との付き合いが始まったのですが、それが極めて実り多い結果をもたらしました。ですので私はレーガン大統領

に自分の考えを伝え、世界に向かって
彼はともに仕事ができる相手であるこ
とを発言してきたのです。」

一緒に仕事をするならば、強固な意
志を持ち、敢然とことに当たる人に限
ります。しかし、そのゴルバチョフ氏
も先人たちと同様、変化を欲しない人
たちにしばしば引き戻されています。

彼自身は、保守的な人たちこそ変わ
べきだと訴え続けているのですが……。

——個人的なことをおたずねしたいので
すが、政治家を志すようになったのは、グ
ランサム市長をつとめた父上アルフレッド・
ロバーツ氏の影響が大きかったのですか。



同じ政治哲学を持つ 偉大な指導者、レーガンとサッチャー



英国議会の下院本会議場。ここで政権党と野党の激しい論戦が繰り広げられる

下院議席数と総選挙勝利党党首

	労働	保守	首相
1945	393	213	アトリー(労)
1950	315	298	アトリー(労)
1951	295	321	モヤー・モル(保)
1955	277	345	イーデン(保)
1959	258	365	マクラミン(保)
1964	317	304	ウィルソン(労)
1966	363	253	ウィルソン(労)
1970	287	330	ヒース(保)
1974(2月)	301	296	ウィルソン(労)
1974(10月)	319	277	ウィルソン(労)
1979	268	339	サッチャー(保)
1983	209	397	サッチャー(保)
1987	229	375	サッチャー(保)

「政治経済」(研数書院)より



多くの支持者を得ていたヒース首相だったが……

栄光への階段

「ダウニング・
テン」
奪回への道

自らの信念を貫き、断固とした政策を実行して、新しい政治の流れを英国にもたらしたサッチャー前首相。その首相の座を得るための党首選立候補も、偶然のチャンスからでした。が、それも「運がよかった」のではなく、そのチャンスを生かし花を咲かせたのは自らの努力があったからなのです。





し、国防相や外相の辞任を要求しまし
た。結局、キヤリントン外相と外務省
の幹部三人が責任をとつて辞任、事態
を收拾したサッチャー首相は、ただち
に海軍機動部隊に出動命令を発し、四
月五日には空母「インビンシブル」や
「ハーミズ」以下、第一次大戦以来最
大といわれる規模の艦隊がポーツマス
港を出航、南大西洋へと向かいました。
一万三〇〇キロを、これだけの艦隊
が航行するには、およそ一ヶ月はかかる
ります。その間アメリカのヘイグ国務

長官をはじめ、さまざまの調停工作が行われましたが、それらはことごとく失敗に終わりました。

このときサッチャーチー首相が、一番懸念したのは英國の軍事行動に対し、各国、特にアメリカの支持を得られるかどうかでした。アメリカにとつて、英國は同盟国であり、一方アルゼンチンは同じアメリカ大陸の国で米州機構を構成する相手です。これは同じ西側に属する国どうしの戦争であり、アメリカにとつても難しい選択でした。しかし、レーガン大統領はサッチャーチー首相

の行動を支持したのです。

強力な指導力に
国民の期待が集まる



こうした戦闘の模様は、航空母艦に設置された衛星用のアンテナを使って逐一英國本国に送られ、國民を鼓舞するに同時に、衝撃も与えました。

艦隊の出航に当たっては、戦闘服に身を包んで兵士を激励したサッチャード

爆撃機がフォークランド島の首都ポートスタンリーの空港を爆撃、二日後の五月三日には、英國の最新鋭駆逐艦「シエフィールド」が、海面すれすれに飛んできたミサイルの攻撃を、もろにうけて炎上しました。このミサイルはアルゼンチンがフランスから購入したエグゼ・ミサイルで、その威力が世界中に宣伝される結果ともなりました。

「シエフィールド」は沈没こそ免れたものの、全艦が火に包まれ、二〇人の死者を出したのです。

の行動を支持したのです。
英國艦隊が海域に到着、本格的な戦闘が始まつたのは五月一日です。戦略

英國国民は、フォーカランド戦争で見せたサッチャード首相の決断と成功を、ほかの政策の実現にも期待したのです。

にポートスタンリーのアルゼンチン軍の降伏で終りました。英國軍の戦死者は二五〇名、負傷者七七〇名に上りました。しかし、戦争の苛烈さを考えれば奇蹟的に少ない犠牲ですんだのでした。フォークランド紛争の勝利によって英國のナショナリズムは高揚しました。そして、最大の勝利は、戦争を決断しやりとげたサッチャー首相が得たのです。これをきっかけとして、あれほど執拗だったサッチャー批判が消えてし

首相は、死者が増えるにつれ、好きなブルーの服を着なくなり、喪服に近い黒い服を着るようになりました。もう一つ、彼女は戦死者が出たびに、その遺族に自筆の手紙を書き続けたのです。

ハイテク兵器で互いに武装した軍隊の戦争はすさまじいのです。この先どれほど戦死者が出るかわからない。そんなサッチャー首相の心痛を支えたのが、指導者としての責任感でした。英國にもとともに「ノブレス・オブリージュ（高い身分に伴う義務）」という言葉があります。第一次大戦の際、ケンブリッジとオックスフォード両大学本業生の多くが戦場で戦死しました。これは率先して部隊を指揮したため、これによつて英國は戦後多くの人材を失い國の再建が大変だったと言われたほどです。サッチャー首相も、今こそこの義務を発揮すべきときだと考えたのでした。

英國の世論を一変させる事件が起つたのは、一九八二年四月のことです。南アメリカ最南端の国アルゼンチンと英國は、アルゼンチンの海上約五〇〇キロの南大西洋に浮かぶフォークランド諸島の領有をめぐつて、一五〇年間争つてきました。この地域に関心を持つ英國は、一八三三年にフォークランド島に艦隊を派遣して、この島に住み着いていたアルゼンチンの人々を追い出し、代わつて英國人の入植者が島に入り今日にいたつていたのです。

しかしアルゼンチンは、フォークランド諸島はあくまで自分たちのものであると主張し続けてきました。一方、英國の領有はすでに一〇〇年を越え、国際法の上からも領有権は自分たちにあるとして対立してきました。サッチャーポークは一九八一年の緊急財政によつて、南大西洋に常駐する唯

とは思つていなかつたのです。もとより外務省や国防省は、軍隊の派遣には消極的でした。フォーエラン
ド諸島が英國本土から一万三〇〇〇キ
ロも離れており、艦隊を派遣するのが
軍事的に難しいこと。さらに、わずか
一八〇〇人の住民のために、艦隊を派
遣するのが妥当かどうか、はたして國
家の威信をかけるに値するかどうかの
点で、大いに疑問があるというのが彼
らの意見でした。

情報、決断そして 危機管理の冴え

英國の世論を一変させる事件が起
断固たる姿勢

ウォーカーは「サッチャーは世論をどうやって味方にしたか」

英國とアルゼンチンの間で戦われたフークランド戦争。そこには英國の改革を追求する、首相としてのサッチャー女史の資質、強力な指導力が最も鮮明な形で現れています。そして、それが戦争の勝利に結び付き、彼女の政治生命を確固たるものにしたのです。

島が、アルゼンチンの海兵隊によつて占領され、四月一日には、空母、駆逐艦、揚陸艦から成るアルゼンチン海軍がフォークランド島を攻撃、兵を上陸させて首都ポートスタンリーを奪取したのです。英國側の守備隊はわずかに三三三名で、成すすべもなくハント総督は降伏しました。





サッチャー首相にとって東西関係以上にやつかったのは、同じ西側に属する大陸ヨーロッパの国々、とりわけ

熾烈なECとの確執



ラジオを通じて外交政策を語るサッチャー首相



いか、重服を着てその強い決意を示した

ゴルビーを見出した
サッチャーの慧眼



サッチャーの外交政策 “世界秩序”的構築

サッチャー前首相は英国内だけではなく、国際政治の舞台でも大きな影響力を発揮しました。他国に対しても言うべきことは、はっきりと言う。EC統合という趨勢の中で、また、湾岸戦争のときも一貫して、毅然たる姿勢を示しました。その一方、ソ連のゴルバチョフ氏を早くから認めるといった、先見の明も持っていたのです。

IRAテロの標的に

Par II
期待された
強力な指導者



Mrs. ATCHER

Part3 ▶ サッチャー首相の政治・経済改革

「ウエット派」

一九七九年の総選挙を前にして、サッチャーワークは自分のことを「合意を重視するタイプの政治家ではなく、自分の思ったことは貫き通す信念の政治家だ」と語ったことがあります。総選挙で勝った保守党的党首サッチャーワーク首相になつて、英國国民は信念にもとづく大胆な政治が展開されるものと期待しました。

しかし、第一次サッチャーワーク内閣の顔ぶれは、かつてのヒース内閣のときと大して変わりはありませんでした。閣僚は全部で二三人でしたが、キヤリン・トン外相、ホワイトロー内務大臣、ピム国防大臣、ソームズ枢密院議長などは、従来から保守党的中核を形づくる伝統的な地主が富豪の出で、ヒース内閣でも閣僚をつとめたベテランたちでした。

サッチャーワーク首相は組閣に当たつて、宣言とは別に、自分と考えを同じくす

「ウエット派」

党的調和を選んだのでした。党内の権力基盤がまだ弱い彼女にとつては、やむを得ない選択でした。また、これまでも教育相をつとめただけという経験を考えれば、どうしてもベテランの協力が必要だったのです。

やがて世間は、サッチャーチャー首相に忠誠を誓う閣僚たちを「ドライ派」と呼び、従来からの伝統的な保守主義者でサッチャーチャー路線に批判的な人々を「ウェット派」と呼ぶようになります。「ウェット」という形容は、サッチャーチャー首相の政策にさまざまな理由で反対する人を指すのですが、その反対の仕方が有名門のパブリック・スクール出身者特有のひ弱なものであったために、こう呼ばれました。

つまり、「ウェット」には、サッチャーチャー革命が要求する厳しい決定についていけない者、それを実行する強固な意志に欠ける者といった響きが込められています。そして、この区別に従えば、船出したばかりのサッチャーチャー政権は、ウェット派が有力なポジションを占め



第一次サッチャー内閣の顛覆。ウェット派の閣僚を多く抱えながらの船出だ。

Part III サッチャー首相の 政治・経済改革

サッチャー政治の展開 彼女はいかにして英國病を克服したか

社会・福祉政策に重点を置きすぎたために、“英國病”とまで言われるほど深刻な死の危機に陥っていた英國経済。それをみごとに蘇らせたのが、サッチャー前首相です。彼女はまず、緊縮財政で小さな政府を目指し、国営企業の民营化などで、自由競争の活発化を実現させました。



NATO(北大西洋条約機構)の首脳会議で、ここでは積極的だったが、EC統合には一線を画した。

利を持ち、独自の政策を追求すべきで、あつて、国家の枠を越えた政策をブリュッセルにいるEC官僚の自由にはさせないというわけです。

「女王陛下の肖像のない紙幣など使えない」というのが彼女の口癖で、こうした点では、サッチャヤー首相は骨の髄から民族主義者なのです。

が目指すものと、およそ反対のもので
す。こうしたところにも彼女とECと
の確執の原因があります。

一九八八年、サッチャー首相はベル
ギーのブルージュにあるECの官僚を
養成する「ヨーロッパ大学」で演説し
EC統合がこれ以上進展することを批
判しました。すると翌年、同じ大学で
今度はECのドロール委員長がサッチ
ヤー批判を展開し、「国家主権」をめぐ
る二人の考え方の違いが浮き彫りにな
りました。

英国はヨーロッパ統合論者にとつて
は煙たい存在で、彼女が政権の座を降
りたときは、ブリュッセルのEC官僚
は、密かにシャンパンで乾杯したとい
うことです。

サッチャヤー首相が一貫して外交の柱
に据えたのは、アメリカとの同盟関係
です。特にレーガン大統領とは、同じ
ように「小さな政府」を目指し、さら
に外交の点でも、東側との対決姿勢を
前面に押し出した点でも共通しており、

「アスペン会談」 ブッシュを決断させた

實に二語が合ひました

ユ大統領とは、昨年の夏に湾岸危機が起つて以来、親密の度を加えました。その典型的な例が、イラクがクウェートに侵攻した日から一日後に行われたアメリカのコロラド州アスペンでの会談です。

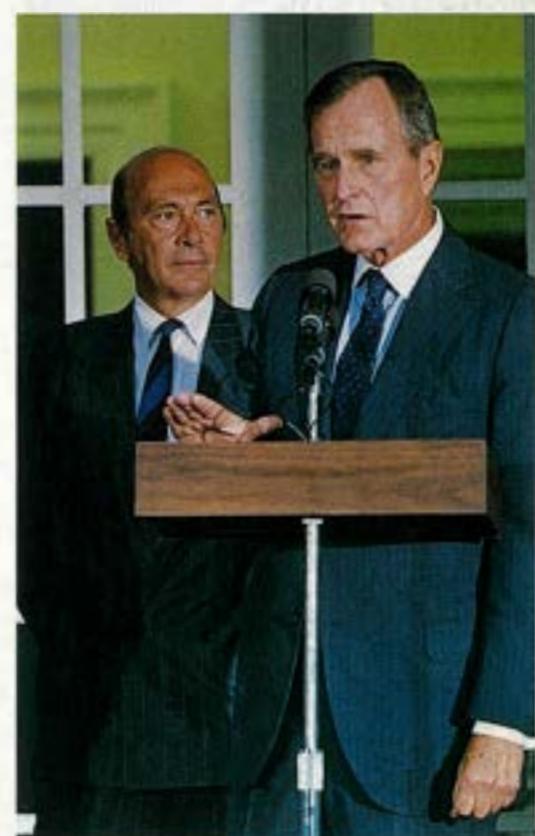
この日ブッシュ大統領は、ここで防衛問題についての演説をすることになりましたが、その前に二人は話しあっていたのです。この時、サッチャヤー首相は、いつも持っている大きなハンドバッグを腕の下にかかえると、ブッシュ大統領としつかり握手し、「ジョージ、知っているでしようが、彼、サダメ・フセインはやめはしないわよ」と言つたということです。二人は駐英

アハリカ大尉の別荘であるナトレスで、中東情勢について話し合いました。この席でサッチャヤー首相は、ブッシュ大統領に対して断固とした態度をとり、国連を通じて広範な国際的動員を行いうよう進言しました。

ある証言によれば、彼女はサダメ・フセインについて、かつて保守党のイーデン首相がスエズ動乱のときのナセルをヒトラーになぞらえたのと同じような表現を使つたと言うことです。

サッチャヤー首相の影響は、どれほど大きかつたか。二日後にブッシュ大統領は、サウジアラビアのファハド国王に電話をかけ、「閣下、ご存知でしょう。彼、サダメはやめはしませんよ」と説得したのでした。ブッシュ大統領はサッチャヤー首相の言葉を、そのまま用いたのです。

サッチャヤー首相は、ブッシュ大統領に協力するため、率先して軍隊を多国籍軍に参加させ、以後の湾岸戦争の勝利に大きな役割を果たしたのでした。



さすがのブッシュ大統領も、サッチャー首相の強い進言で決意を固めた



Mrs. THATCHER

Part3 ▶ サッチャー首相の政治・経済改革

その一方で勤労意欲を高めるための減税も実施され、所得税の最高税率は六〇%に抑えられました。その代わりに、付加価値税（VAT）は、一五%にまで引き上げられました。付加価値税は、一般の物品にかかる税で、日本の消費税にあたります。

こうした政策に対し、これは裕福な階級を優遇するものだという反対の声が、労働者を中心にあがりました。しかし、サッチャー首相はそうした声にもかかわらず、信念とする政策を次々に実施に移したのです。

最初の内閣では、公務員十五万人の整理、教育費の抑制が行われ、競争力のない企業や地域の振興のための援助金は三年間停止され、国民健康保険サービスの拡大の停止などの措置がとされました。民営化はこの時点ではまだ、のちに展開されるような全面的なものではありませんでしたが、そのレールはこのとき敷かれたのです。

経済を建て直し、「小さな政府」のもので自由競争を原則とする社会を出現させようとしてサッチャー首相がとった措置に對して、野党の労働党はもと

批判の嵐に 抗しながらも、 経済改革に 大ナタをふるう

その一方で勤労意欲を高めるための減税も実施され、所得税の最高税率は六〇%に抑えられました。その代わりに、付加価値税（VAT）は、一五%にまで引き上げられました。付加価値税は、一般的の物品にかかる税で、日本の消費税にあたります。

最初の内閣では、公務員十五万人の整理、教育費の抑制が行われ、競争力のない企業や地域の振興のための援助金は三年間停止され、国民健康保険サービスの拡大の停止などの措置がとされました。民営化はこの時点ではまだ、のちに展開されるような全面的なものではありませんでしたが、そのレールはこのとき敷かれたのです。

経済を建て直し、「小さな政府」のもので自由競争を原則とする社会を出現させようとしてサッチャー首相がとった措置に對して、野党の労働党はもと

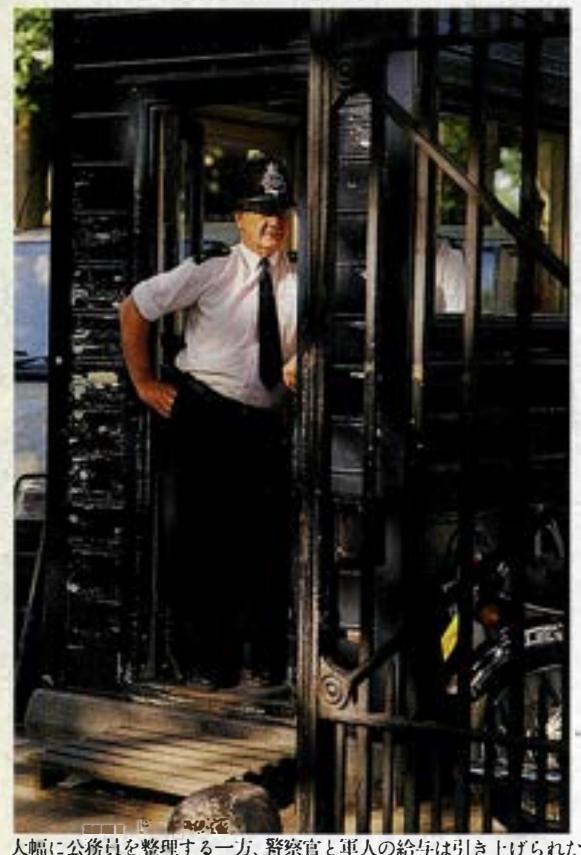
サッチャー首相はまず、社会の建て直しに取り組んだ



サッチャー首相は数少ないドライ派のハウ蔵相、産業相として入閣したジョー・ゼフ氏などの力を借りて、自分の信念の具現化にとりかかりました。それは当時「英國病」とまで言われた福祉偏重の政策に大ナタをふるい、自由競争社会の実現を目指すものです。彼女は、英國の経済を活性化するには、「マネタリズム」にもとづく緊縮財政を組んでインフレを退治する以外にないと考えていました。「政府が必要とする財政資金は、天からは降ってきません。資金が政府の借金しかないのです」とサッチャー首相は語っています。こうした信念のもとに最初の予算が編成されたのが、一九七九年の六月でした。

予算削減を提案し た大蔵官僚も仰天

サッチャー首相の新政権が目指したのは、経済の自由化と国家の権威を回復することでした。そのためにつた政策、法と秩序の回復、強力な防衛力の整備、減税、国営企業の民営化、公営住宅の払い下げなどは、どれも選挙で公約したものばかりでした。就任直後、まず彼女が手がけたのが、軍人と警察官の給与引き上げでした。引き上げ率は、それ三三%と二〇%という大幅なもので、これによつて社会秩序を回復し、さらに強い軍隊を持つて外交に当たるというサッチャー軍人と警察官の給与引き上げなどは、どれも選挙で公約したものばかりでした。就任直後、まず彼女が手がけたのが、軍人と警察官の給与引き上げでした。引き上げ率は、それ三三%と二〇%という大幅なもので、これによつて社会秩序を回復し、さらに強い軍隊を持つて外交に当たるというサッチャー軍人と警察官の給与引き上げなどは、これのことな



大幅に公務員を整理する一方、警察官と軍人の給与は引き上げられた

より閣内からも批判が出されました。大幅な予算削減により、失業者の増大と産業基盤が弱くなるという懸念からです。最も強く批判したのは、ブライアン雇用相で、このほか閣僚のギルモア、ウォーカー、ソームズ、キャリントンなど、いずれもビース前首相の流れをくむウェット派の面々でした。

もともと英国の首相は、大臣の中の首席にすぎないと言われてきました。首相はなにごとも内閣の意見に沿う形で行動するのがよいとされ、従来はそれほど強い権限を持つ存在ではなかつたのです。

こうした政治のありかたを「内閣閣制」と呼んで英国政治の伝統としてきました。しかし、英國の憲法は慣習法で明文化されているわけではありません。これと同じように首相の権限についても、あくまでも慣習に則つて運用されるのです。

サッチャー首相がこれまでの慣行

がら彼女が掲げる緊縮財政と矛盾しますが、英國社会の建て直しの根幹であるとして実施されたのです。その代わり、他の部門での予算の削減は実に思い切つたものとなりました。予算の原案を作つたのは、大蔵官僚を指揮したハウ蔵相です。内閣にあつて数少ないサッチャー派であるハウ蔵相は、サッチャー首相の政策をよく理解しているつもりで、五億ポンドの削減を提案しました。しかし、首相はそれでは少なすぎるとして、さらに大幅の削減を命令したのです。

驚いたのは、原案作成に当たった大蔵省の役人たちです。彼らがぎりぎり



つけ、最終的には原案よりも膨らんだ予算が作られるのが世界の常識で、英國でもこれまで例外ではありませんでした。ところが、サッチャー首相は、大蔵原案では削減の幅が足りない、もつと大ナタをふるうよう命じたのです。

結局、サッチャー内閣の最初の予算では、公共支出の削減額は三五億ポンドに達しました。これは当初大蔵省が考えた額の実に七倍でした。それによつてインフレを抑制しようというものが、大ナタをふるうよう命じたのです。

これは緊縮財政を実行しようというものが、インフレ退治が政権の最優先事項とされました。

サッチャー首相の決意の現れですが、

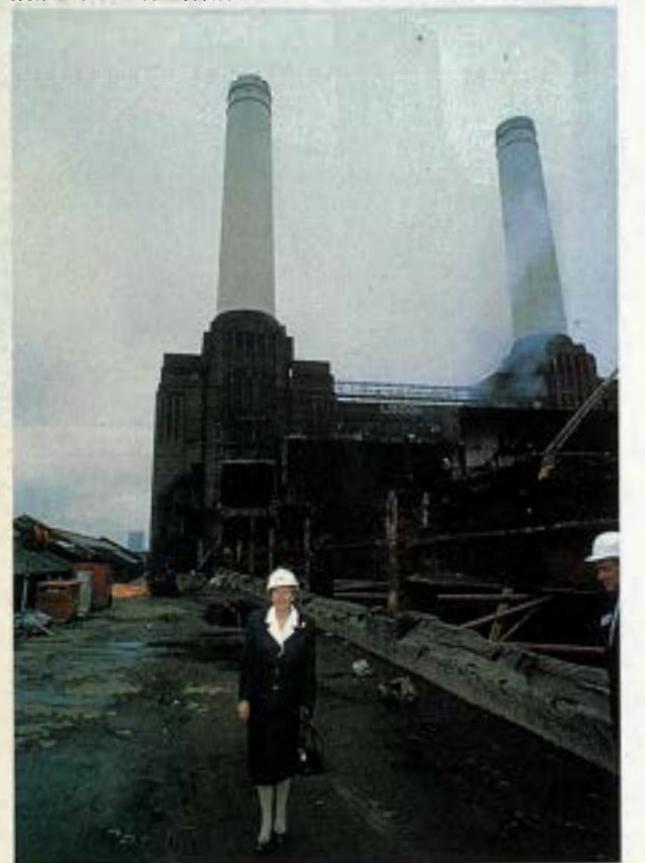


経済改革、失業率削減を目指し、日本企業の誘致にも積極的だった（日産の工場で）

予算にも通じるはずよ」と批判をかわしました。



政府批判のデモ隊が警官隊とぶつかり、騒乱状態になることもしばしば。それだけ英國病の根は深かった



産業の合理化、近代化を目指し、あらゆるところに大ナタをふるった

サッチャー政治の展開②

英國病退治の 総決算

1つ間違えば経済の破局を迎えるかねない大ナタをふるい、奇跡とも言える英國経済の大改革をサッチャー前首相は行いました。労働組合との対決、教育、地方自治、国営企業の民営化など、大ナタはさまざまな分野に振り降ろされました。だが、そこには「やる気を起こさせる」という精神が、一貫して流れています。

打倒宿敵の労働組合を

フォークランド戦争に勝利した翌一九八三年の六月、サッチャー首相は総選挙に打って出ました。選挙の結果は保守党が三九七議席を獲得、二〇九議席の野党労働党に圧勝しました。こうした支持を背景に、第二期のサッチャヤー政治がスタートしました。彼女がまずやつたことは閣僚の入れ替えで、ウエット派を切り、サッチャヤー線に忠実なドライ派を多数起用したことです。外務大臣のハウ、蔵相ローリン、内相ブリタニア、雇用相デビッドといった人たちで、彼らは以後長年にわたってサッチャヤー政権を支えます。

こうして閣内を固めた首相は、第一期でやり残した改革に、さっそく手をつきました。労働組合対策、国営企業民営化の徹底、それにもなう株主の大衆化、教育制度の見直しといった課題です。中でも「英國病」の原因とされた労働組合との対決に、彼女は精力を注ぎました。

当時、英國労働界を牛耳っていたのは炭鉱労働組合で、委員長のアーサー・スカーゲルは、名前をもじつて「アーチャー王」とあだ名されるほどの権力を誇っていました。首相に就任した直後の一九八〇年の炭鉱ストでは、その力をいかといふほど痛感させられたサッチャヤーは、炭鉱労組との対決に備えて、日々と手を打ちました。まずストが長期化するのに備えて、石炭の備蓄を増やし、その上でアメリカで実業家として成功した辣腕の実業家イン・マグレガー氏を石炭公社の総裁に立て、マグレガー氏の背後にサッチャーの



苦境にあっても断固として初志を貫徹

しかし、サッチャー首相の経済政策はたちまち危機にさらされました。一九八〇年になると、失業者は二〇〇万人を越え、インフレ率は二一%に達しました。職を見つけられない若者は不満のはけ口をもとめて暴走し、サッカーファンのなかには乱暴を働くものが出で、「フーリガン」として社会問題にまで発展しました。フーリガンというのは、もともとロンドンに住んでいたアイルランド系の一家の名前で、彼らが乱暴者ぞろいだったことから、一般に乱暴者を意味し、その後とくにサッカー場で乱暴狼藉をはたらく若者たちをこう呼ぶようになりました。

それでもサッチャー首相は、断固として初期の政策を貫いたのです。かつて女性週刊誌とのインタビューで、「私だって夜中に一人ぼっちになれば泣くことだつてあります。本当は感情を持つた人間です」と語ったことがあります。しかし、こうした苦境にあっても絶対に弱気は見せませんでした。

一九八一年十月の党大会を前に大幅な人事の刷新をはかり、党内はサッチャヤー女史のこの断固とした姿勢を受入れたのでした。

一九八二年になると、緊縮政策の効果が現れはじめました。インフレ率は一〇%を切つて、一桁台となり、工業の生産性も向上きとなり、これに付けて支持率も回復はじめました。

サッチャヤー女史が尊敬する保守党の長老マクミランも、「過酷な政治は産業を破壊する」と警告。サッチャーのライバル、ヒース前首相は議会で「政策を変更しなければ不況は悲惨な結果になる」と政策の変更を迫りました。世論の支持も下がりはじめ、就任当初四一%あつた支持率は、一九八一年末には二五%にまで落ちこみました。

それでもサッチャー首相は、断固として初期の政策を貫いたのです。かつて女性週刊誌とのインタビューで、「私だって夜中に一人ぼっちになれば泣くことだつてあります。本当は感情を持つた人間です」と語ったことがあります。しかし、こうした苦境にあっても絶対に弱気は見せませんでした。

一九八一年十月の党大会を前に大幅な人事の刷新をはかり、党内はサッチャヤー女史のこの断固とした姿勢を受入れたのでした。

一九八二年になると、緊縮政策の効果が現れはじめました。インフレ率は一〇%を切つて、一桁台となり、工業の生産性も向上きとなり、これに付けて支持率も回復はじめました。

サッチャヤー女史が尊敬する保守党の長老マクミランも、「過酷な政治は産業を破壊する」と警告。サッチャーのライバル、ヒース前首相は議会で「政策を変更しなければ不況は悲惨な結果になる」と政策の変更を迫りました。世論の支持も下がりはじめ、就任当初四一%あつた支持率は、一九八一年末には二五%にまで落ちこみました。

サッチャヤー女史が尊敬する保守党の長老マクミランも、「過酷な政治は産業を破壊する」と警告。サッチャーのライバル、ヒース前首相は議会で「政策を変更しなければ不況は悲惨な結果になる」と政策の変更を迫りました。世論の支持も下がりはじめ、就任当初四一%あつた支持率は、一九八一年末には二五%にまで落ちこみました。



地元のフィンチリー選挙区で、支持者たちに手を振る

最後までユーモアを
忘れず

選挙区の党員集会
で後継者を決定



総選挙のキャンペーン。もう2度とこの姿は見られない

Part III
サッチャー首相の
政治・経済改革

サッチャー以後

サッチャー女史は、次の総選挙には出ず、議員生活に終止符を打つことを表明しました。英国では小選挙区制を採用しており、責任ある政党政治を行うには最適なシステムとして、長い間機能しています。サッチャー女史が11年間にもわたって、強力な政権を維持できたのも、実はこの小選挙区制によるものと言えるでしょう。



メイジャー氏の勝利宣言を、官邸の窓から見守るサッチャー女史

11月号 特別企画第3弾！

サッチャー女史 訪日特集

の は、いかがでしたでし う
か。 したサ チャー女史との
シ 一を に掲 しましたが
さらに では り との
の をはじめ での シ
ジウ の や の を
な とともにお えします。
くださ。

（英国で「ジャパン・フェスティバル1991」を開催中）

英國で「ジャパン・フェスティバル」1991」が開催されています。ロンドンにあるジャパン・ソサエティの創立100周年を記念して、この九月から来年一月まで英國各地約20か所で、日本文化を紹介するための各種イベントが三五〇以上も行われています。

（アーネスト・デニス 演奏） 日本園など
の伝統文化および現代芸術、科学技術
スポーツなど、これまでにない規模で
総合的な日本紹介の行事が繰り広げら
れています。

このフェスティバルは、サッチャー
政権時代に英國側から提案され、日本
側が全面的に協力するもので、名営業
裁は我が国からは皇太子殿下が、英國
からはチャーチルズ皇太子殿下が就任六
れています。



PPS, AFP=II, PANA,
Geo Howard, CO (Central
Office, ~~Information~~, PA (The Press Asso-
cation), BTA, ~~Press~~ Tour's Author

女史の選挙区、ロンドン北部のフィンチリー支部では、さっそく後継者選びが行われ、一二三人が申請しました。その中から、選挙区の保守党員選舉によつて、弁護士でサッチャー政権の法律顧問をつとめたハートレー・ブース氏が後継者に指名されました。彼は必ずしもサッチャー女史の意中の人間ではないと言わわれますが、候補者は選挙区の党員の意向によつて決まり、たゞ前首相といえども決定に介入することはできません。

三二年前に、ジョン・クロウダード卿の引退を受けて、若干三三歳のサッチャー女史が新人として選挙に打つて出たように、今度はブース氏が選挙に挑

英國の下院選挙は小選挙区制をとつており、各党とも一つの選挙区からは一人の候補者しか出せません。選挙権は十八歳以上の者にあり、原則として選挙区の支持政党の候補者に投票します。

候補者はブース氏の場合のように、党員の選挙であらかじめ決まつてしますから、総選挙の段階では候補者個人を選ぶというよりは、各党が掲げる政策に沿つて政党を選ぶという色彩が大変強いのです。

各党は自分たちが政権を担当することになれば、これこれの政策を実行するという公約を掲げて選挙戦を戦います。こうして選挙は公約と公約の戦いとなり、候補者は所属する政党の公約に忠実であり、また当然それに拘束されます。

候補者の個人的な能力も、もちろん重要です。選挙戦になれば選挙演説や戸別訪問などで、選挙民に自分の党の政策を十分説明できる力量を備えていなければなりません。

さらに反対党の候補者との論戦でも相手を議論で論破する必要があり、政治家としての本当のプロでなければ当選しないのです。英国はもともと二大政党を前提としてきました。それが、現在では保守党、労働党、そして自由党と有力な政党が三つあり、いきおい各党とも激しい選挙戦を繰り広げるところになります。

たとえば、サッチャヤー首相がひきさて保守党が大勝した一九八七年の選挙では、保守党は総議席六五〇のうちの議席、五八%を獲得し、労働党は三五%、自由・社民連合はわずかに三%しか議席を獲得できませんでした。

て政策の折衷が行われれば、整合性が損なわれてしまいます。それを英国人は嫌うのです。政治はあくまで政策と政策の戦いであって、多数を得た政党に公約を実行するチャンスを与えるべきだ、そのための小選挙区制は正しいというのが、大方の英国人の考え方なのです。

支持政党の候補者 に投票



選挙キャンペーン中のサッチャヤー女史。子供の頃から、選挙は何よりも心がときめいた

貫した
政策実現のためにも
小選挙区制が
不可欠

もし、比例代表制を導入したとすれば、一九八七年の選挙結果は、保守党

